

議 事 要 旨

議 事 要 旨	
会 議 名	徳島県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会会議
日 時	令和4年2月18日(金) 18:00～19:10
場 所	Web会議
出席者	西村会長、金山部会長、寺嶋委員(代理:川人氏)、川端委員、石倉委員(代理:高木氏)、古本委員、安藤委員、影治委員、林委員、漆川委員、田上委員、藤原委員、森委員、香留委員、鎌村委員(代理:大久保氏)、東條委員(代理:佐藤氏)、飛梅委員、中村委員
陪席者	徳島大学病院:横田副看護部長、川下看護師長、尾形看護師長、高田看護師、福田MSW、秋月MSW、宮越技術補佐員 徳島県立中央病院:有馬MSW 徳島県保健福祉部:香美氏、加島氏 徳島県立三好病院:菅原氏 阿波病院:大本氏

議 題

金山診療連携部会長の指示のもと、徳島県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会が新型コロナウイルス感染予防のため、Web会議での開催となった。

今年度より徳島県がん診療連携協議会会長に就任した西村会長から、開催にあたり委員の方に挨拶があった。

金山部会長から、本日の会議は事前にメールで送付している資料に基づき、議題に沿って進行していくとの説明があった。

【報告事項】

1. 都道府県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会報告について

徳島大学病院高田看護師から、添付資料②に基づき都道府県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会会議参加報告があった。

- 1)今年度も都道府県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会会議はWebで開催された。
- 2)第4期がん対策推進基本計画及び次期整備指針策定のための提案に向けたアンケート結果報告については、①コロナ禍における相談対応に関する現状②がん患者やご家族に関する困りごと③小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存研究促進事業及び、それに基づく今後の情報提供・相談支援部会の活動について報告があった。
- 3)がんと診断されて間もない人への情報資材作成(冊子)が、ほぼ完成との報告があった。内容についてはがん情報サービスホームページより閲覧可能である。

高田看護師から、詳細についてはURLを参照いただきたいとの要望があった。

※下記のURLより内容確認ください。

第16回 情報提供・相談支援部会 部会委員限定のweb配信

https://ganjoho.jp/med_pro/liaison_council/bukai/shiryol7.html

第17回 情報提供・相談支援部会 Web会議

https://ganjoho.jp/med_pro/liaison_council/bukai/shiryol8.html

金山部会長から、がんと診断されて間もない人への情報資料作成(冊子)の現況について、閲覧可能なのか、まだ関係者へ意見を募っているところなのかとの質問があった。

高田看護師から、現在は完成したとの回答があった。

金山部会長から、冊子は各施設に配布されるのかとの質問があった。

高田看護師から、配布についてはまだ情報がないため詳細が分からないが、ホームページから印刷は可能であるとの回答があった。

2. 徳島県民がんフォーラム報告について

金山部会長から、添付資料③に基づき「徳島県民がんフォーラム2021実施報告者」について報告があった。

- 1) 令和3年10月11日(月)に徳島大学病院で徳島県がん診療連携協議会診療連携部会、情報提供・相談支援部会、緩和ケア部会が主催、徳島大学病院がん診療連携センターと徳島新聞社が共催で開催を行った。新型コロナウイルスの影響で無観客開催となり当日の様子を徳島県内のケーブルテレビで放映、また令和3年11月14日(日)徳島新聞朝刊に掲載を行った。
- 2) 内容は「がんとうまく付き合う患者術・生活術」で「早めに一度『人生会議を』しましょう」をはじめ、最新のがん手術療法、がん薬物療法と体調管理、がん相談支援センターなどについて講演を行った。
- 3) 最後にパネルディスカッションを行い、患者さんからいただいた質問に回答した。

金山部会長から、来年度以降も引き続き徳島県民がんフォーラム公開講座を行いたいとの要望があった。

3. PDCAサイクルについて

徳島市民病院加藤公認心理士が本日欠席のため代理で徳島大学病院宮越技術補佐員から、添付資料④に基づき「令和3年度都道府県がん診療連携拠点病院PDCAサイクルフォーラム」について報告があった。

- 1) 昨年は徳島大学病院と徳島赤十字病院から2名が出席したため、今年度は徳島市民病院加藤公認心理士に参加いただいた。
- 2) 令和4年2月1日にオンライン会議形式で開催された。内容は、第4期がん対策推進基本計画のワーキンググループの報告、事前アンケートの報告等であった。
- 3) 演題は都道府県がん診療連携拠点病院が中心となって担っているテーマに基づくものやそれに準ずるものであった。これまでは、診療連携拠点病院の間でがん医療の質の均てん化が目的とされてきたが、これからはそれぞれの機関の特色を生かした専門的医療が集約化されていくことも望まれるとの声も上がっている。
- 4) 『PDCA サイクルの確保について地域を巻き込んでの相互評価になると、旗振り役が必要となり地域がん診療連携拠点病院として単独で動くことは難しい。都道府県拠点や地域高度型拠点が中心となってPDCAサイクルを回すことが望ましい』という全国的な意見があった。

宮越技術補佐員から、PDCAサイクルの確保については徳島県内のがん診療連携拠点病院間で相互評価、病院間の相互訪問も行っていましたが2年前から新型コロナウイルス感染予防のため行えていない。先日開催された徳島県がん診療連携協議会緩和ケア部会でも、緩和ケアチームのPDCAサイクル確保の相互評価、相互訪問が出来ておらず、来年度からはWebで行うことが検討された。情報提供・相談支援部会でもWebで行っていただきたいとの要望があった。

金山部会長から、コロナ禍で相互評価等が出来ていなかったことから、今後はWebで行っていただけよう勧めていただきたいとの意見があった。

PDCAサイクルフォーラムの資料は、国がんHPにある下記のURLをご参照ください。

https://gan.joho.jp/med_pro/vod/pdca/forum/index.html

4. 実務者のがん相談支援センター相談員研修等について

徳島大学病院秋月社会福祉士から、添付資料⑤に基づき「地域相談支援フォーラムin四国～みんなどうしてる？コロナ禍での相談支援～」について報告があった。

- 1) 令和4年1月22日に地域相談支援フォーラムin四国をWeb開催で行った。受講者は49名とオブザーバー(各県協議会医師・行政担当者)、実行委員など計73名の参加があった。内容は国立がん研究センターの高山先生、岡山大学病院の石橋先生に講演をしていただき、後半は参加者でグループワークを行った。
- 2) がん相談支援の提供方法や患者さんご家族を取り巻く環境に大きな変化がある中で、各県の現状や取り組みを共有し、がん相談支援センターの課題について参加者で話し合った。
- 3) 参加者からは、「全国アンケート結果に基づいたデータなど用いてわかりやすかった」、「オンラインでの取り組みについて具体的に聞いて参考になった」などの意見があった。

【協議事項】

5. 来年度事業計画について（実務者会）

徳島大学病院福田社会福祉士から、実務者会総括の秋月社会福祉士の代わりに次年度事業計画について説明があった。

- 1) 実務者会では各チーム分けを行っている。研究企画チームでは、がん相談支援フォーラムの担当が愛媛県となっており、徳島県として協力を行う予定である。
- 2) PDCA サイクルチームでは、昨年度と今年度は新型コロナウイルスの影響で相互チェックが出来ておらず、来年度はWebでの相互チェックが行えるよう検討を行いたい。
- 3) 地域療養チームでは、議題その他で有馬社会福祉士から報告がある。
- 4) 去年度から、実務者会の開催が出来ていないため来年度はWebで実施したい。

徳島大学病院福田社会福祉士から、チームリーダーも含め各施設の実務者の変更もあることから来年度は早めに実務者会をWebで行いたい。各施設の実務者の方には個別で連絡を行うが各施設の委員の先生方からも周知をお願いしたいとの要望があった。

6. その他

就労支援手帳(仮)・療養手帳(仮)作成について

徳島県立中央病院有馬社会福祉士から、添付資料⑥に基づき療養情報WG報告があった。

- 1) 実務者会で各ワーキンググループがあり、療養情報ワーキンググループからの進捗状況の報告を行いたい。
- 2) ワーキンググループ結成時から、患者さんに向けて何らかの療養情報を配布することが出来ないか検討を行ってきた。
- 3) 療養手帳は他県でも作成されているが、徳島県版としてがん患者さん全般に配布を行えられる内容にしたい、実務者へメールによるワーキングを一度行い、意見や情報をいただいた。
- 4) 内容についてはまだ、具体的なものは出来ていないが添付資料⑥の内容を入れて冊子を作成していく予定である。

有馬社会福祉士から、徳島大学病院と徳島県立中央病院が共同で行っている徳島がん対策センター事業で就労支援手帳を現在作成している。平成27年10月に「がんの治療をしながら仕事を続けるとき」の冊子を発行したが、数年経っておりアップデートが必要である。現在はがんと診断されたときに仕事を退職する方が4割と多い。治療をしながら仕事と治療を両立できる情報提供を目的とした「仕事とがん治療を両立するためのハンドブック」の冊子を令和4年度中に発刊する予定で進めているとの報告があった。

金山部会長から、資料にある内容で徳島県版の療養冊子と、仕事と両立の冊子を進めていただいている。いつごろの完成予定かとの質問があった。

有馬社会福祉士から、「仕事とがん治療を両立するためのハンドブック」が急がれているため令和4年度中には発刊、療養手帳は内容が多岐にわたり情報収集等に時間がかかるため、いつ頃完成するかは現在未定であるとの回答があった。

患者会香留委員から、ワーキングについて療養手帳を作成するにあたり何度かワーキングが開かれるようになっていたが今年ほどどのように進んでいるのかとの質問があった。

有馬社会福祉士から、大変申し訳ないが以前ワーキンググループに意見をいただいてから、開催できていないのが現状であるとの回答があった。

香留委員から、本日の報告は以前の過程のまま止まっているとのことなのかとの質問があった。

有馬社会福祉士から、これを機に具体的に動いていきたい。協力をお願いしたいとの回答があった。

徳島市民病院古本委員から、療養冊子について記載されている内容を入れて作成となるとページ数が多く本になるのではないかと、ホームページで閲覧できるようにするのかとの質問があった。

有馬社会福祉士から、他県でも独自の療養冊子を作成しているがページ数については20ページ～厚い本程度の冊子になっている。当県でもある程度はページ数が増える予定であるとの回答があった。

古本委員から、標準的治療を網羅するだけでも膨大なページ数になるのではないかととの質問があった。

有馬社会福祉士から、一般的なものだけにして言葉の定義等の情報提供にしていく予定であるとの回答があった。

金山部会長から、療養手帳の作成は大変だと思うが実務者で検討しながら作成していただきたいとの要望があった。

香留委員から、昨年度から2年間コロナ禍で医療従事者の方も大変だと思うが、患者会でもなかなか患者さんの顔が見られない時間が続き、表情や状態が見えづらい環境である。患者会に寄せられる声として気軽に面会に行けない状態を受け入れつつ、変わらず通院することに不安を抱える患

者さんもおられ、様々な場面等で障壁となることが増えている。その中で医療機関での相談支援の工夫や状況を聞かせていただきたいとの要望があった。

金山部門長から、香留委員より要望があったように今回の会議で各施設より状況を聞かせていただく予定である。順番に報告をお願いしたいとの要望があった。

徳島大学病院西村会長から、当院でも新型コロナウイルス感染予防の関係で面会が制限され、がんサロンも長い間開催できていない状況である。また病院間での相互評価も出来ていないため、工夫しながら1日でも早く開催を行いたいとの報告があった。

金山部会長から、がんサロンの開催は難しいが、がん相談支援センターでの相談は可能である。件数もコロナ禍でもあまり減少していないため、活用いただきたいとの要望があった。

徳島県立中央病院川端委員から、当院もがんサロンは開催できていない。先日開催された地域相談支援フォーラムで他県の工夫点として、Zoom配信や情報提供の場を設けていたり、地域での相談支援の場所の紹介などをしていた。当院も工夫点を取り入れて次年度をどのようにしていくか検討したい。面会は出来ていないが病院全体の取組みとして、iPadを使用した面談やLINEが利用できるシステムなどを取り入れて行っている。外来化学療法などは、患者さん自身が体調の管理した上で治療を行っていただいているとの報告があった。

徳島県立中央病院有馬社会福祉士から、普段のがん相談は感染対策やパーティションを使用している。退院支援については、退院先については面会が出来ない病院が多いため在宅に移行する方が増えている。退院後に在宅で診ていただける医師とオンラインで繋いで退院前に訪問看護やケアマネジャーと共にカンファレンスを行っているとの報告があった。

徳島赤十字病院石倉委員の代理として高木社会福祉士から、当院も面会制限を引き続き行っている。コロナ禍が2年も続き、withコロナで行わなければいけないが独り暮らしの外来患者さんが、がんの告知や病状説明を行う時に息子・娘の家族が県外に在住により同席出来ないため、テレビ電話で病状説明を行っている。入院すれば面会が出来ないため在宅療養をされる方が増えた。そのため、地域のケアマネジャーや訪問看護師等多職種との連携をしながら取り組んでいるとの報告があった。

徳島市民病院古本委員から、当院でも患者サロンは開催できていないため、冊子やアンケートを送付し、Webで開催できるかなど記載いただく内容となっている。現在も面会できない状況ではあるが、看取りや重症の場合は認めている。また病院でWi-Fi環境を整えて家族と連絡が出来るように工夫を行った。相談については件数等も例年とあまり変わりはないとの報告があった。

徳島県立三好病院安藤委員は会議出席であったが、Web環境の不具合で繋がらなかった。

徳島県立海部病院影治委員は出席であったが、呼び出しのため退席中であった。

吉野川医療センター林委員から、当院でも面会は禁止である。ターミナル時には感染対策をしていただき、限られた時間ではあるが面会を認めている。本年度から当院でも緩和ケアチームが設置され活動を行っているとの報告があった。

徳島県鳴門病院漆川委員から、当院でも面会禁止となっているが末期や看取りの場合は、県外在住の家族には検査を行い陰性の方、県内在住の家族は人数制限をして面会を行っている。また、緩和ケア病棟が1年以内に完成予定である。緩和ケア病棟が6階に完成予定であるため同じフロアに外来化学療法室も移動する予定で工事が進んでいるとの報告があった。

続けて漆川委員から、先程報告があったがんと診断されて間もない人への情報資材作成(冊子)について、どこのホームページを閲覧すればよいのかとの質問があった。

宮越技術補佐員から、国立がん研究センターのがん情報サービスのページを閲覧いただきたい。

後日、URL をメールで送らせていただきたいとの回答があった。

がん情報サービス

<https://ganjoho.jp/public/index.html>

がんと診断されたあなたに知ってほしい

https://ganjoho.jp/public/dia_tre/anatani_shitte_hoshiikoto/index.html

がんと診断されたあなたに知ってほしいこと(冊子)

https://ganjoho.jp/public/qa_links/brochure/pdf/003.pdf

阿南医療センター田上委員から、当院もがんサロンを開始し始めた頃に新型コロナウイルスが流行り中止となった。緩和ケア病棟も開院時より活動していたが、現在はコロナ病床になっている。緩和ケアの患者さんは一般病棟に入院していただき、看取りや急変時には個室に移動して、主治医の許可により家族の面会を行っているとの報告があった。

阿波病院藤原委員から、当院も同じく入院患者の面会は原則禁止だが、ターミナル時には感染対策を講じて短時間の少人数での面会を許可している。早くコロナが終息することを期待しているとの報告があった。

徳島県医師会森委員から、本日コロナ禍で苦慮されている各施設の現状を本日聞かせていただいた。徳島県医師会でも、活動に関して一緒にできることがあれば協力をしていきたいとの要望があった。

徳島県がん診療連携協議会緩和ケア部会寺嶋部会長の代理で川人副部会長から、来年度より徳島県がん診療連携協議会緩和ケア部会長となる旨の紹介と挨拶があった。

患者会香留委員から、各病院のコロナ禍での現状を聞かせていただき患者さんやご家族のために現場で工夫等していただいていることに対するお礼の言葉があった。患者会の中で感じているのは、コロナ禍で病院に面会や通院を控えなければいけないことはわかまえてはいるが、限られた資源の中で患者さんやご家族が受け入れることに話し合いや納得がどこまで出来ているかが気になることである。患者会でも様々な情報発信を心掛けているが、一方通行の情報発信となりがちで患者さんがどう感じているのか、得られる情報が足りているのか確認するすべがないまま時間が過ぎている。この部会を通じて共有できるものがあれば考えていきたいとの意見があった。

徳島県保健福祉部鎌村委員の代理で大久保健康づくり課課長から、小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業を令和2年から開始している。がん相談支援センターの方々にも紹介いただいているが積極的な利用をお願いしたい。また、新型コロナウイルス感染の影響でがん検診の受診率が低下している。今年度は徳島駅構内のデジタルサイネージに広告を設置したり、現在行っているワクチン3回目集団接種会場に「がん検診を受けましょう」がん検診ポスターを掲示して早期発見を呼びかけている。来年度もがん検診について積極的に啓発を行っていききたいとの報告があった。

徳島県介護支援専門員協会東條委員の代理で佐藤氏から、コロナ禍でここ数年は在宅療養や在宅での看取りが増えているのが現状である。病院の面会についても工夫していただいているが、患者さん本人やご家族の意向で在宅を希望される。医療機関からは情報提供をいただいたり、Zoom で繋いで多職種が参加して情報共有を行っている。最近では若い方の看取りも多くなってきている。若い患者さんにも最期をどう過ごしたいかを確認して、医療的サポートも大切であるが緩和での痛みのコントロールを行いながら良い時間を家族と過ごしていただいている。看取り後もケアマネジャーがグリーフケア等ご家族に話を伺うことで、私たちにも気づきがあり、連携や情報共有が出来ているとの報告があった。

金山部会長から、コロナ禍で在宅に移行される方が増えており、在宅の場合は緩和医療、疼痛管理の必要性が重要であるとの意見があった。

徳島県歯科医師会飛梅委員から、当歯科医師会では術前の口腔ケアと緩和ケア病棟の訪問診療を行っている。また令和3年6月17日（木）、医科歯科連携の充実を図り、患者の生活の質の向上を図ることを目的として、県病院局との間に「医科歯科連携の推進に係る相互協力に関する協定」を締結した。それに基づき徳島県立中央病院、三好病院、海部病院からも代表に参加していただき、医科歯科連携の支援をしていくプロジェクトチームを立ち上げた。プロジェクトチームとして徳島県立3病院間で昨年11月にWebで会議を開催し連携に関する情報共有を行った。今後も引き続き開催する予定であるとの報告があった。

徳島県薬剤師会中村委員から、今まで同様薬剤師会としてがん相談支援センターの周知に務めていきたい。また、在宅については、在宅を進めている薬局も増えてきている。在宅対応に関しては、各薬局又は薬剤師会に相談いただきたいとの報告があった。

西村会長から、本日の開催について参加のお礼と挨拶があった。

金山部会長から、有意義な情報共有の会になったとお礼と挨拶があり閉会となった。